

沈氏近世叢句類集

五



俳諧近世歌句類題集夏部目錄

四月 卯月 初夏 菖蒲 夏衣 綿貫

袷 夏衣 浮衣 夏羽織 籠衣 菖蒲

灌佛 若葉 若楓 卯花 抽花 早橋

柿花 栗花 桐花 女貞花 榴花 枣花

青梅 寺 菖蒲 桑樹 夏柳 夏木立 茂 寺

木下園 菖蒲 夏菴 夏秋 寺 夏刈 小麦

短夜 夏夜 夏月 午時鳥 布穀 老翁

少き草 地蔵 羽衣 松 寺 名草 鶴

浮泉 水雞 蚊 土 蚊 蚊 火 樹

紙帳	蚕	土	蠅	虫	火取虫	毛虫
棒振虫	水馬	飛蛾	蟻の子	蝙蝠	牡丹	
芍薬	土杜若	水蓼	苔花	林子花	土浮葉	
卷葉	初茄子	花茄子	松魚	共		
五月	檄	甲	粽	柏	菜玉	
石地打	土藥降	葛蒲	花あや	蓬蒿	あやあや	
さうめ湯	競馬	土病	竹極	竹の子	若竹	共
鹿子	照射	火串	垣牛	地蛭	枝蛙	
忘草	一ツ葉	管草	常木	十葉花	橙子	共
為夏	石竹	百合	夏菊	葱	美人草	

夏目一

鳶尾	青きき	夏芦	花菱	共	茨花	夏燕子
藜	蓼	酸醬花	夏萩	田植	共	入栴
又月	又月	又月	又月	又月	又月	又月
六月	水五月	氷室	不二沼	鞍馬	共	祇園
赤定	座取	紅花	綿花	海花	共	蒲花
粟薈	胡广花	荻の花	共	藍川	共	風葉
以陽花	掖の花	櫻花	凌霄	栲花	共	麻
百日紅	夏野	夏草	夏山	共	青田	油松
芍薬	石葛	河骨	萍	共	藻花	藻川
瓜	瓜花	蓮花	蟬	共	夏雲	雲華

白雨	世	昼款	川鴉	鴉	世	涼
納涼	暑	大暑	世	日傘	炎元	雫
風蕙	去用	帷子	羅	世	辻	扇
麻以巾	掛衣	汗	汗拭	扇	固扇	世
簞	竹奴人	竹奴	抱篋	共	篋枕	心太
水飯	冷汁	一夜酒	鮎	鮎	鮎	海月
林檎	李	葛水	柿干	香需	菰	清水
泉	茅打福	御被	世			

夏目二

俳諧近世歌句類題集夏部

江戸雀堂来曾編

四月

卯月

春のあけぼののうららかなるに
 ついでにさくらをよめるに
 旅人のあはれをよめるに
 春のあけぼののうららかなるに
 卯月

梅檀のうららかなるに
 卯月

初夏

初夏の夕べを詠りて谷の宿
三斗
夏草の影を詠りて
橋の
影を詠りて
宿の
影を詠りて
三斗

音

初夏の夕べを詠りて
宿の影を詠りて
三斗
夏草の影を詠りて
橋の影を詠りて
宿の影を詠りて
三斗

夏一

綿

綿の影を詠りて
宿の影を詠りて
三斗
夏草の影を詠りて
橋の影を詠りて
宿の影を詠りて
三斗

吟

初夏の夕べを詠りて
宿の影を詠りて
三斗

後... 檀香
口... 後... 夏見
の... 後... 万和
之... 神七...
後... 連也
夏...
と... 山松
後... 未曾
輝...
世...
二

夏羽折
... 掌矣

夏羽折
... 未嘗

夏羽折
... 未嘗

夏羽折
... 未嘗

東のつれ今いふことなる 未曾
相の花 女貞花

清い新葉のまはりの 桐花 三光
つれづれにわらわの世に花は

棕花
檜桐の花をよめるは 對行

事花
西のつれ事の花の日 大に

昔梅
昔梅の葉は 葉花

文

昔梅のつれ 清の村 未曾
昔花

つれづれにわらわの世に 土曜
中つれづれにわらわの世に

有明のつれ 鳥章
昔梅

つれづれにわらわの世に 雨塚
つれづれにわらわの世に 未曾

夏柳
つれづれにわらわの世に 葉花

夏柳 月のあはれも極きあり 成美
夏あま

負くことさ村をさぐりのまあり 士朗
我希とこふんくもせんあま 成美
鳥さのひんまのりかひのまあり 景光
ちのちの降もあまのまあり 完東
あま

た〜〜と流のまのまのまの 士朗
島山乃あまのまのまの 早布尾
あまのまのまのまのまの 葛三

お下園

あまのまのまのまのまの 葛三
常盤不敬

楠ちのまのまのまのまの 三平
あまのまのまのまのまの 三平
松竹のまのまのまのまの 井眉
あまのまのまのまのまの 井眉
あまのまのまのまのまの 井眉

夏あま
あまのまのまのまのまの 葛三
あまのまのまのまのまの 葛三

新島... 夏... 完素
夏百日人の...
夏の... 夏... 万和

夏... 茶... 山... 網...
夏... 何... 夏... 茶...
浦... 夏... 山... 網...

新... 夏... 横生
夏... 上... 横生

夏... 月... 一...
夏... 月... 一...

夏... 士... 網... 美... 山... 横生
夏... 士... 網... 美... 山... 横生
夏... 士... 網... 美... 山... 横生

夏夜

くさの目を洗ひたり海松齋

あのおかましちるあつ屋よりし 大に丸
あのおかまのしんりなまをりし 可成屋
なつ夜の露のしんり明より 信屋
あのおかまのしんりなまをりし 首三

夏月

夏月なつ柿のしんりなまをりし
かおのおかまのしんりなまをりし 士朗
なつ夜の露のしんりなまをりし 三幸

かきま

あのおかまのしんりなまをりし 曾屋
夏月なつ柿のしんりなまをりし 石嶺
田車にのりしんりなまをりし 三幸

時島をかきまのしんりなまをりし 士朗
あのおかまのしんりなまをりし 三幸
あのおかまのしんりなまをりし 可成屋
あのおかまのしんりなまをりし 乙二
あのおかまのしんりなまをりし 三幸

帝

うり初の情とありてふは亦
心利のよなきは良情のたふ麻
我と云ふは雀の情九日のあふ
未嘗

初と云ふは心の道は良情に
昔三

次なきのたふはあふ良情に
未嘗

考

世の初と云ふは良情とありて
成美

あふはあふは良情に
未嘗

あふはあふは良情に
未嘗

権

権と云ふは良情とありて
成美

市井と云ふは良情の神の情
葛三

松陰と云ふは良情の神の情
横山

礼と云ふは良情の神の情
万和

子と云ふは良情の神の情
吉静

禁

着と云ふは良情の神の情
士明

権と云ふは良情の神の情
五明

権と云ふは良情の神の情
桐栖

いづれの世も... 乙二
花の... 月... 貞
鳥

橋... 葵亭
花... 未嘗

毛... 東夷
... 大庄

... 屋鳥

持振... 彦人
あり

我... 雄
... 望
三日月の影... 鳳明
花... 子

... 井
... 井
... 乙二

牡丹

掃掃やあめりく、暮山
ささのやみ条あすの枝折門 斧枝
掃掃もあめりく、白おと遊公方 貞照
とやく了牡丹錦室堀の内 士朗
日のもよの心ゆく牡丹、大に丸
有明の片つらにあゝかたに 寒松
白ら舞いこりたに人の代り 完来
清い空に傳へるあす牡丹が 榮光
ひびやりと牡丹のつとをきこり 三徳人

芍薬

牡丹

花のほ世かゝるはらりて 榮光
芍薬、あめりく、あすも西の子 榮光
あめりく、芍薬、あめりく、あすも 士朗
さしやあめりく、あすもあめりく、あすも 三徳
あめりく、あすもあめりく、あすも 葛三
あめりく、あすもあめりく、あすも 士朗
あめりく、あすもあめりく、あすも 成美
あめりく、あすもあめりく、あすも 貞照

あせしとあせしにけく縁が 榮花
投しとあせしにけく縁が 乙二
あせしとあせしにけく縁が 完集
後川とあせしにけく縁が 三人
拍まら

あせしの本行あせしにけく縁が 年心

榮花 ちたす

榮花 ちたす 希言

ちたすの段とあせしにけく縁が 榮花

榮花

あせしにけく縁が 虚白
あやえ

あせしにけく縁が 虚白
あやえ
あせしにけく縁が 完集
あせしにけく縁が 野後
あせしにけく縁が

あせしにけく縁が 貞樂

あせしにけく縁が

あせしにけく縁が 完集

乃に清一の海に 省吾

たふさる

つら川を切遊ゆかた 完来
浦の子れ有るまきりき 牛心

たふさる

たふさるゆめゆめ 乙二
吾見ふに日遊ゆめゆめ 雄測

龍馬

日遊ゆめゆめゆめ 音測
遊ゆめゆめゆめ 虚白

ゆめゆめゆめゆめ 丹看
ゆめゆめゆめゆめ 貞観

舟雨 舟雨の日

舟雨ゆめゆめゆめ 北映
ゆめゆめゆめゆめ 業葉

竹植

竹植ゆめゆめゆめ 士朗
我ゆめゆめゆめゆめ 首三
竹植ゆめゆめゆめ 休春
竹植ゆめゆめゆめ 孝雄

竹子

草のちりしむるものよひて 成美
竹の子の妙の枝の子のふはる 三平
竹の子のちりしむるものよひて 沙羅
竹の子のちりしむるものよひて 大丸
あり

わの竹のまゝをよふまは 上胡
あり竹のまゝをよふまは 蒼乳
わの竹とまゝに伸ゆか系所 椿串
ま竹のまゝをよふまは 成美

鹿子

あみちりしむるものよひて 成美
岩をよふまは 定来
あみちりしむるものよひて 三平
池をよふまは 蒼乳
鹿のちりしむるものよひて 一茶
葉のちりしむるものよひて 玄桂
服をよふまは 横串

照射

あみちりしむるものよひて 冥松

火串

山崎千伯又の僧のてんがて 英大

松のてんがてのてんがてのてんがて 蒼丸

あつちのてんがてのてんがてのてんがて 丹眉

砲牛地地

新敷のてんがてのてんがてのてんがて 一茶

花鳥のてんがてのてんがてのてんがて 権忠

伊勢のてんがてのてんがてのてんがて 士朗

千代田のてんがてのてんがてのてんがて 省吾

沼もあつちのてんがてのてんがてのてんがて 菊魚

校陸

村崎のてんがてのてんがてのてんがて 年心

高麗のてんがてのてんがてのてんがて 鳳翔

あつち

あつちのてんがてのてんがてのてんがて 可憐

あつちのてんがてのてんがてのてんがて 葉花

あつち

あつちのてんがてのてんがてのてんがて 三光

あつちのてんがてのてんがてのてんがて 千代

あつち

錦上のよ何れも... 来曾
美人も世のあはれちの... 鳳明
葛の草

藤の... 車大
... 可登

青芒 さま

... 乙二
... 白川

花菱 花
... 葉丸

... 葉丸

... 葉丸

葉丸

... 葉丸

酸漿花

蘭の花中陸路のふりかへる 幽情

西条前 胡蝶の花

西条前 胡蝶の花のふりかへる 乙二

胡蝶の花何れもふりかへる 中絶

荏の花 西条前 荏

荏の花のふりかへるの二日月 可成

冷くとも花を信じて西条前 三六

荏の花 十葉 白くふりかへる

西条前

西条前 白くふりかへるのふりかへる 一

西条前 下にはふりかへる 六葉

西条前

西条前 花のふりかへるのふりかへる 七葉

西条前 花のふりかへるのふりかへる 八葉

西条前 花のふりかへるのふりかへる 九葉

西条前 花のふりかへるのふりかへる 十葉

花

花のふりかへるのふりかへる 十一葉

花のふりかへるのふりかへる 十二葉

花のふりかへるのふりかへる 十三葉

旅人の海松松のり破り孔 榎電
川はゆるきまれば流く月涼し 五明

石菖 河骨

石菖子 流くあまの暮の舟 菊真
河骨の浮島寺のあり坊り 旅詞

岸

岸より 正しき月日か
岸中 一りさの 強者 年心
ふきくま岸より 花の 榎電
しきまの流し たまの 舟の 舟等

藤花 藤川

ものゝたの 流すまの 榎電子 榎電
藤の流や 流くあまの 舟の 舟
藤の流や 流くあまの 舟の 舟
うくまの 流すまの 舟の 舟

瓜 瓜乃瓜

蔓々あまの 舟の 舟の 舟
柳あまの 舟の 舟の 舟
瓜蔓あまの 舟の 舟の 舟
しきまの 舟の 舟の 舟

奇園 一茶 鳥章 椿也

老いさらばはかばかしく起る

道

道はあやふくありぬ昔のなま士綱
くくく道ゆゑも。山田の那 篤光
つ満く白道とていふまじく 大石
我よのともはは消るる道ゆゑ 貞照

坪

坪はや島とてはるの内 桂也
坪はくまは坪あふはは 士綱
素儂も山にふくむ坪ゆゑ 成章

のちのち舟場なる坪ゆゑ 六車
わくわくさき日とては坪ゆゑ 乃和
山はくまのさきゆゑのさき 菊真
坪はあふははくはは山ゆゑ 未曾

夏雲

夏の雲は白鷺とてはるの 鳥頂

雪

雪はあふははくはは山ゆゑ 雪雄
雪はあふははくはは山ゆゑ 三平
雪はあふははくはは山ゆゑ 三平

あはれ〜ゆ舟やい〜まの嶺 城美
わが橋や蔵のゝりもしる 陰波
整然と馬のりしり我のまゝ 菊塙

白 兩

あはれ竹きふの〜の士羽
あはれやち〜の鶴の影もか
あはれ乃の鶴の〜の橋の乳 幽嘯
あはれやい〜位あゝねの月 漣也
あはれらり〜の〜の竹の奥 李獲

巻 終

あはれやち〜の鶴の影もか 三度
あはれ乃の鶴の〜の野の乳 朱紀
あはれ本多乃午時花〜の 椿堂
あはれ乃の鶴の〜の鶴の影もか
あはれ乃の鶴の〜の鶴の影もか
あはれ乃の鶴の〜の鶴の影もか 鳥章

文 終

あはれやち〜の鶴の影もか 城美
あはれ乃の鶴の〜の鶴の影もか 葛三
あはれ乃の鶴の〜の鶴の影もか 成美

おきりの湯山とつむち用いれ 与人
おのころし舟の底鏡ち月と 未嘗
凡産

帷子 羅
かこししや入ららるの色と多 午心
懐のちやいぬやいぬの舟の中 乙二
くすのちやいぬやいぬの舟の中 友之
とあつたいぬやいぬの舟の中 三六

友世四

辻
光

あつたの只と位の更りけり 友四
くすのちやいぬやいぬの舟の中 午心

晒

子ちりしとてしとてしとてし 標也
おのころし舟の底鏡ち月と 太呂

麻
以布

くすのちやいぬやいぬの舟の中 乙二

掛
香

掛香のちやいぬやいぬの舟の中 文九

行 行 行

行の玉さあそびはよめくひ 一茶
玉さあそびあしし行ぬひ 三茶

扇

か茂川にあそびたけり 雄剛
夕ふの櫻とくも扇の乳 一茶
とく扇月とくも扇の乳 一茶
けり扇の乳とくも扇の乳 一茶

扇

あそび扇の乳とくも扇の乳 一茶

及世不

筆

白くは筆の乳とくも筆の乳 一茶
あそび筆の乳とくも筆の乳 一茶
とく筆の乳とくも筆の乳 一茶
けり筆の乳とくも筆の乳 一茶
あそび筆の乳とくも筆の乳 一茶

行 人

あひ乃ち侍くひる木婦く 可於定
そとと侍くおとくは竹婦人 三浦人
す小早の身もあつた竹婦人 貞興

竹奴
人妻と膝くまはり竹奴 又左

抱筆
抱筆白長明くは守心なき 五明
抱筆乃夢や月花くまは あり
抱筆や夢くは 蘇夜姫 梅鳥
黄枕

あつた侍くは竹婦人 三浦人
す小早の身もあつた竹婦人 貞興
あひ乃ち侍くひる木婦く 可於定
そとと侍くおとくは竹婦人 三浦人
す小早の身もあつた竹婦人 貞興

心太
あつた侍くは竹婦人 三浦人
す小早の身もあつた竹婦人 貞興
あひ乃ち侍くひる木婦く 可於定
そとと侍くおとくは竹婦人 三浦人
す小早の身もあつた竹婦人 貞興
水飯 冷汁
あひ乃ち侍くひる木婦く 可於定
そとと侍くおとくは竹婦人 三浦人
す小早の身もあつた竹婦人 貞興
水飯 冷汁

一夜酒

吟汁に酒香の如くくせき未嘗
斗と酒を山行の如く川内
松竹の如く庭に生く一花酒具尺

鮎

鮎を山子ねと舞うくく舞し二
鮎乃書おねとくく須六泊未嘗

鮎

海月

鮎くくくせき未嘗入子身
中鮎の声ま川内釣の竿く部

林檎李

秋のまにたる海月六首三

つらつらと月おのし林檎六
さささの赤い李を鳴か犬一茶小

葛休梅干香需散

着のり茶多飲より馬の上
梅干の香梅干のり一茶百
三茶六

清氷泉

くくおの節おまら清氷六
おのり清氷のり清氷六
成美

